



冷氣衝き、熱戦の火蓋切られる

11月23日、「村駅伝」のスタートダッシュ



第646号
 発行人 ● 豊丘村公民館 唐澤克己
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (12月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,414人
 女 3,522人
 総人口 6,936人
 世帯数 2,101戸

今年も長野県縦断駅伝に、原さん・平澤さん・私の豊丘村出身の三人が「飯田下伊那チーム」の代表として参加することができま

飯田下伊那主将
 松村健一

県縦断駅伝が十一月十五日と十六日に行なわれ、村出身の松村健一、原武司、平澤宏幸の三選手が今回も大活躍し、飯田下伊那は見事三位に輝きました。

「何とかなる」と思う

私は主将を一年間務めさせて頂きました。チームの目標にはここ数年と同じく『メダル奪取』を掲げました。今年も主力選手の調子が良く、それに刺激を受けた他の皆も、その背中を追いかけて一年間頑張ってきました。そして厳しい練習

の成果が色々な大会の結果に結びついてきて、良い状態で本番に臨むことができました。また、学生達も全国規模の大会に参加している選手がいて、かなり期待を持ってました。



一日目は一区から上々のスタートでした。期待していた区間も、心配な区間もありましたが、皆それぞれが力通りか、それ以上の走りをしてくれました。しかし、全諏訪が強い選手を前半に固めてきて、九区の私がタスキを受け取った時点では、想定外の六分差をつけられていました。気持ちが高ぶって、急な上り坂が続くにも関わらず、力んでスタートしてしまいい序盤でだいぶ疲れました。それでも私の区間は、絶対に勝たなければいけない区間だと思っていたので、「何とかなる」と思って走り続けました。ラスト2kmは本当にし

んどかったです。大勢の方の応援のおかげもあって最後まで頑張れました。タイムは自己記録を四秒短縮し、全諏訪との差も約四分縮めることができました。次の区間の後輩も快走し、一度は首位に立てたのが本当に嬉しかったです。

飯田下伊那・全諏訪、飯田の三つ巴の展開でした。二日目の選手も同様に一杯走ってくれましたが、あと一歩及ばず三位となりました。それでも、目標としていたメダルが獲れて本当に嬉しかったんです。来年はさらに上の「優勝」を目指して頑張っていきたいと思えます。

(正木淳子)

豊丘の三選手 今年も手堅く力走

県縦断駅伝で飯田下伊那チーム3位に輝く

子供も男も 大人も女も 同じ土俵で

「村駅伝」で多彩な顔ぶれ競い合う

最高の仲間と最高の走り

TEAMハラタケ

田中孝文

去年の大会に続き、二連覇を狙う今年の大会。「絶対に優勝する!!」という意気込みで、臨みました。

メンバーは昨年とほぼ同じで、チームのリーダの原さんを中心に、走る事が好きなメンバーが集まりました。

自分は、小学校四年から出場し、今大会は六回目でした。けれど毎回、独特の緊張感には、慣れないものです。本番に向け、各自空いた

順位	チーム名
1	TEAMハラタケ
2	元豊中駅伝部
3	スペース
4	豊丘中学校サッカー一部A
5	豊丘中学校男子バスケ部チームA
6	ジャガビー
7	豊丘中野球部A
8	豊丘中学校サッカー一部B
9	豊丘中野球部B
10	男シックス
11	豊丘中学校男子バスケ部チームB
12	豊丘北小スーパーティーチャーズ
13	豊丘中学校男子ソフトテニス部
14	豊丘中女バレ
15	ドリームACとよおか
16	豊丘中1年テニス+卓球+バスケ
17	豊丘中学校女子テニス部
18	ありのまま走り隊
19	豊丘村役場駅伝部
20	公民館第二分館
21	サウスフレンズ
22	パレーボールクラブ
23	豊丘村消防団幹部選抜
24	リアルだんQ
25	無 類

時間練習を重ねる中で、段々と緊張を感じました。大会当日、より一層緊張感が高まりましたが、少し楽しみでもありました。

今日の朝「中学生に負けたら丸坊主(笑)」という指示があり、絶対に負けられないものがありました。

自分は四区、二・九kmのゆるやかな登り坂や下り坂

の市沢日菜さんからのいい滑り出して二区に渡り、原さんの力走により一気にトップの姿をとらえられる位置で続けてくれました。

走り始め、自分のペースを掴むことが出来、先頭と少しづつ差を縮めて抜き去り、五区に先頭でタスキを渡し、そのまま五区の藤木

さんが先頭を守って優勝!! 自分は個人でも区間賞を獲得することができました。

今回、優勝できたのは、最後まで補欠を含め全員が諦めず全力を出しきれたからだと思います。

来年もこのメンバーで出場し、三連覇を狙いたいと思います。

今回の駅伝をサポートして頂いた色々な方々や、沿道で声援して下さいました方に本当に感謝したいと思います。

段丘

何年か前から「断捨離」(ダンシヤリ)という言葉が聞くようになった。「モノを断ち、ガラクタを捨てる」という言葉が、執着も離れていくというこころしい。片づけなのに整理整頓でも収納方法の手段でもない「断捨離」が人々の支持を得た。まず減らす。つまり捨てる。自分にとって「要る／要らない」で仕分けしていく。

捨てると聞いても「もったいない」と思ってしまう。捨てられないのは執着なのだそう。自分にとって要らない物は、保管ではなくて放置。実質はゴミ同然いつか使う……「いつか」といつ? そこにホコリがたまりカビが発生し環境的にも健康でなくなる。

自分に必要でないのなら必要としていくところへ回していく。リサイクルショップへ持って行く。先日テレビで海外のリサイクルショップで日本の製品はモノが良く人気があると言っていた。「捨てる」という罪悪感は少し薄れるかも。

年末までにどれだけ捨てられるだろう。考えて疲れるより少しずつでも捨てよう。まずキッチンが良いと思う。人生の基礎であり、命を養う場だから、清潔に、モノを絞って機能的にしていこう。

いい加減さであり、いい加減さでいこう。

社会教育研究大会で確認 村の社会教育と公民館活動の先進性

十一月に開催された関東甲信越静社会教育研究大会に、村からも社会教育委員の方々が参加し、他県の参加者と情報交換や意見交換を重ねてきました。そうした中で、普段なかなか知ることが難しい他地域の様子や状況に触れることができたようです。貝原社会教育委員長さんに記事を寄せていただきました。

第45回関東甲信越静社会教育研究大会 神奈川大会 参加報告

社会教育委員長
貝原 豪

十一月二十・二十一日、表記大会が鎌倉市の鎌倉芸術館で開催されました。六名の参加者は、二日目には分かれて分科会に参加しました。

初日は、山下泰裕氏（東海大学理事・副学長）の講演会でした。

実に謙虚な姿勢からは、地域において「人を育てる」

十一月二十一日は、「地域作りと社会教育の役割」と「子どもの豊かな感性の育成」の分科会に参加しました。

大きな自治体では専門のスタッフを常駐で配備して社会教育に取り組み、地域や地域住民を動かし、行政にも積極的に提案をしています。しかし、豊丘村の規模の自治体では、専門職員を配置して社会教育のみを専属させる余裕はありません。その様な中で本村程に公民館活動の活発な自治体は少なく、強く先進性を確認してききました。

特筆すべきは、通学合宿の社会教育の立場からの評価として、全員参加を原則としていたこと、企画・準備段階から報告会までの透明性と公開制でした。どの様な企画でも、全員賛成



他県他地域の状況も知る事ができました

の実施はあり得ません。しっかりととした目的と願いを丁寧に説明して実施し、その中で課題を乗り越えた所に大きな成果が期待できるのではないかと。その様なアドバイスと激励も頂きました。

大きな大会に参加できたことは、自分自身の見聞も広めますが、本村の社会教育のレベルと公民館活動の先進性を確認できる機会ともなりました。

野田平の木地師墓碑

郷土の遺産 シリーズ (44)

北村 田中雅孝

野田平旧分校の裏手に、木地師の墓碑群がブロック塀に囲まれているというので、この記事の取材に思っ

て最近行って来た。

ところで、野田平の木地師の墓碑については『豊丘村誌・上巻』(第十章)や宮下慶正『信濃の木地師』(ぎょうせい昭和六二年)に木地師についての詳しい記述がある。これによれば無縁仏として散在していたものを

土地の人が近年になって集めたものであり、一四基のうち年号が判読できるもので最古のものが弘化四年で、最新は明治四年のものである。伴野村の木地師の歴史は相当古いとされ、虻川上流にも木地師たちが入ったのである。

この墓碑群のうち菊花紋が刻んであるのが七基ある。菊花紋の木地師の墓碑は下伊那地方には二十五基を数えると言われているが、野田平の墓碑群は現存する最多の集中地ということにな

ろう。なぜ、木地師が菊花紋の墓碑を刻むことができたのかは浅学の私に検証する能力はないが、近江・君が畑・蛭谷に縁のあった惟喬親王(九世紀末)の子孫をルーツとするという縁起伝承に由来するものである(宮下慶正著参照)。

そこで、私が想起するのは歴史家の網野善彦の『非農業民論』(同著作集・第七巻中世の非農業民と天皇)である。網野は日本の古代王権である天皇制が中世において断絶することなく、

存続したのとは何故かという問いを提起し、それは「非農業民」を権力基盤とすることによって可能となったとする説である。そこで「非農業民」とは山民・海民をはじめ商工民・芸能民等の遍歴する人々である。

近世下伊那において漆器は重要産品であった。飯田町の現在の通町には伊那電鉄設置を主導した井原五郎兵衛の近江屋をはじめ、漆器商が立ち並んでいた。下伊那の漆器産品の生産額は明治初期までは県下でも最大であったが、明治二〇年代半ばに木曾(西筑摩郡)に追い越され、漆畑は興隆する蚕糸業の桑園に転換され、木地師は木曾へと移ったり、山里に新たな生活の場を求めていったのである(飯



野田平の木地師墓碑

村の図書館利用状況 夕方は 土日は 多数 中高生が 家族で 来館

この時期のオススメ
『雪の結晶ノート』
図書館司書
松下佑子

村の図書館は、開館以来約半年が経ちました。快適な環境の中で、利用者も順調に増えているようです。館内で自分の好きな本をゆったりと読むのもよし、また、専門書を借りて自身の知識や教養に磨きをかけるのもよしです。図書館はまさに人類の英知の宝庫です。

に、中高生の皆さんがたくさん来てくれています。土日は、ご家族で来てくださる方が多く、しっかりと本を借りていくつてくれます。

来年は、さらに多くの方に図書館に来ていただければと考えることができます。自然の神秘を感じますね。寒い日は外に出ることさえためらいがちですが、大人になると特にそうですね。寒い日だからこそ外に出て、この本を参考に自然の神秘に触れてみてはいかがでしょうか。

読書の楽しみ
本はいつでも楽しめる
南小三年 西山しずか

私は本をよむのが好きです。本をよむのがいいなと思うのは、じぶんでえらん

だ本が、一番おもしろいし、むらとのしよかん(図書館)では二どに三〇さつまでかりられるからです。わくわくしながらさがしてかりた

本は、どれもおもしろいから、本をよむのはいいなと思います。ほいくん(保育園)のころは、漢字のな

い本しかよんでいなかったけれど、いっぱい漢字を習ったから漢字の本もかりられて、今はいいなと思いまし



「おばけの本」もおもしろい

た。これからは漢字を習って、いろいろな本をよみたいおもいます。これから一〇さつずつかりて、「ゆめあるて」の本をぜんぶかりてみたいですよ。

わたしのおすすめの本は、こわい話の本や、ゆうれいやおばけの本です。だから大人になっても、としをとつても「ゆめあるて」で、本を一〇さつずつかりて、いろいろな本にであいて、いろいろな話をしりたいです。みなさんも、本でいろいろなたいけんをしてみてください。

河野獅子舞、秋田に舞う

全国獅子舞フェスティバル参加記 前編

河野大宮神社の獅子舞が、秋田県で開かれた全国獅子舞フェスティバルに長野県代表として参加し、十一月一日に大勢の観客の前で見事な演舞を披露しました。事前の準備の様子も含め、その参加記を紙面の関係上二回に分けて掲載します。

河野大宮神社
獅子舞お囃子保存会
実行委員長

寺沢宜勝

秋田県由利本荘市文化交流館大ホール、一〇〇名の大観衆を前に、それ

まで荒れ狂っていた獅子が優美なおかめの舞に穏やかさを取戻し調和のとれたお囃子の音に合わせてエンディングに向かっていく。赤鬼青鬼が警護の役を終えると同時に緞帳の幕が降りた。しばらく間があつて大ホールに響き渡る拍手の音。十一月一日午後四時、河野の獅子舞が秋田に行くに決めたから五ヶ月目の大団円を迎えた瞬間だ。先人達から一三〇年間、手渡して受け継いで来た伝統芸能、地域に深く根ざしているとは云え、

後継者づくり、基本の習得の仕方、時代と共に表現方法は変わっていても、等々多くの課題を抱える保存会活動。本年一月、役員会は何か新しいことに挑戦しよう、その過程を通じて少しでも課題をクリアしていこう、会のあり方を前進させようと話し合う。そんな折、二十九回目の国民文化祭(国体の文化祭版)が秋田で行なわれ、全国獅子舞フェスティバルがあることを知る。春祭りの練習を通じて参加への機運を盛り上げつつ、文化庁に申請、六月一日、承諾の通知を受け取る。(長野県からは獅子舞一団のみ、他ジャンルから二団体、会の中に緊張感が走るのを感じつつ七月三十日の倉出しをキックオフとし長い練習のスタートを

切。◎先輩達の指導を仰ぐこと◎部門長中心の運営とすること◎新人を増やすこと◎法被を新たなデザインとし清新な気分とすること

◎秋田行の経費は原則自前とすること、などを基本理念とし、これに獅子バスで乗込めたら最高だネなどと話し合いながら毎日の練習に打ち込んでゆく。八十八歳から最若手二十三歳まで、老若男女総勢四十名を超える一団が仕事の合間をぬって会館に集合。時に基本論で、時に表現方法で、侃々諤々意見をぶつけ合いながら少しづつ少しづつ前進していきました。(一月号に続く)



河野獅子舞は圧倒的なスケールで会場を魅了

こちら資料館 ⑬ 小さな展示会のご案内

とよおか祭りの朝、「白登展はもう終わっちゃったのかな。」と声を掛けられた。その方は、資料館の特別展は毎年とよおか祭りに合わせて開催していたので、今年もそうだと思っていたようで、とても残念がっていました。たぶん同じような考えで、白登展を見逃してしまった方が結構いるのではないのでしょうか。そのような方のため、と

白登画伯はなかなかママ手刷りの版画で年賀状を作ったようです。版木も裏

表両面使つてあつたりして画伯の性格の一端が伺えます。芸術家の遺品です。勝手に刷ることはできませんが、どのような賀状になるか想像するのは楽しいのではないのでしょうか。



年賀状の版木

資料館主任 唐澤武彦

今年七月に実施した「社会を明るくする運動」に関連して、小中学生が作文を書きました。そのいくつかを今月号から紹介します。

小池崇美礼

最初は、豊丘中二年の小池崇美礼さんの作文です。「自分が脱いだ靴をそろえる」という、誰にでもできる小さなことを心して行なうことから、やがては他を思いやる心が育っていく過程を、自身の体験を通じて述べています。「一隅を照らす」という言葉が思い起こされ、感動

『一隅を照らす』人に

—小・中学生の「社会を明るくする運動」作文より

小池崇美礼

社会を明るくする、と聞くと、私はとても大きなことと感じます。犯罪を止めたり、悪い人をつかまえたといった大きなことと感

「靴をそろえる」といふ言葉を知っていますか。靴をそろえること、心もそろえるという言葉です。私はこの言葉を小学生の時に学校で教えてもらいました。靴をそろえると、自然に気持ちが落ち着きます。靴がそろっていると、周りから見ると、とても気持ち良いです。そして後から来た人もまたそろえていきます。こんな小さなことでは、犯罪をとめたりすることはできないかもしれません。でもみんなが気持ち良いし、小さなことの積み重ねが、犯罪をしない人を増やせるのではないかと思います。なぜかという、靴をそろえることは簡単だからです。小

さな子供でもできます。小さいころから靴をそろえていると、もし間違つたことに手を出そうとしても、「そろえる」気持ちが犯罪者になつてしまふ一歩手前で悪い心をとめられるのではないかと思います。

しかし、中学生になつて、そろえるのは、何も靴だけでなく、公共の場所、図書館の本やトイレのスリッパなど、自分のものだけでなく、公共のものもそろえられると良いと思います。

後日知ったことであるが折りにつけ手紙をくれていて、やがて結婚に至つた御主人は、農業共済の役所に勤め始めた二年間は一緒に暮らしたが、その後は県内各地に単身で赴いていた。定年後のしばらくの期間を含めて、農業をしつつ留守宅を一人で切り回した。



シリーズ「元氣な高齢者」 健康の秘訣 家族の絆と 仲間との交流



北澤千穂さん 九十歳 佐原在住

家族に恵まれ、友に恵まれることほど幸せなことはありません。家族や友など、自分にとって大切なものがこの世に存在することは、本当に素晴らしいことです。幸福や生きがいは、間違いなくそこから生じてきます。

千穂さん二歳の時父と死別(母二十四歳)。気丈な母と祖父の元父親がいないからと他人に後ろ指を指されないようにと妹と二人で力を合わせて家の手伝いをします。四年生までは分校の複式学級で学び高等科一年まで学校に通わせてもらう。卒業後農業の手伝いをしていたが、ご近所の方の縁

で飯田の澤村呉服店に就職し三年程住み込みで働いて、五十人超の大所帯であり似た名前先輩がいたため「由紀」の愛称を得て皆に可愛がられた。店員として頑張っているうちに足を悪くして佐原に帰り再び家の手伝いをする。元々は養蚕中心で梅を片手間に作っていたが、ある時諏訪から梅の買い取り業者が来、予想以上の高値で売れたので桑畑から梅畑に切り替えた。その時は女手一つで桑株を掘り出し周囲の人を驚かせた。梅以外にも豚、鶏、兎を飼うなど、忙しく過ごした。

現在御主人を亡くし一人暮らしであるが買い物は月二回はつらつ帰り及び村の循環バスでバブルにて済ませ、料理は自分で作っている。東京に住む娘、松本に住む息子達が時々訪ねてくれ同行する孫、曾孫と過ごす一時は何よりの楽しみである。役所勤めであった亡き夫のお陰で子供達に米を送れることに今更ながら感謝の念で一杯である。遠方に住む二人の子供さんとの家族の絆を深めること、更にはつらつ仲間と近況を語り合うこと等が心身共に健康を維持されている源であると感じました。

文責 日下部富次
桐崎 長一

地道なついに全国優勝 努力で

村体協弓道部の平澤さん、日本一に

村の体協弓道部に所属する平澤敏弘さんが、今年九月に行なわれた「天皇盃全日本男子弓道選手権大会」で見事優勝されました。県内初の快挙だそうです。誠心誠意地道に技能の向上に努められ、最高の栄誉に輝いた平澤さん、本当におめでとうございました。

「天皇盃受賞」

村体協弓道部
平澤敏弘

九月二十一日から二十三日に東京・明治神宮中央道場で開催された、天皇盃第六十五回全日本男子弓道選手権大会にて優勝し、天皇盃を受賞いたしました。全日本選手権大会は、弓道の全国大会の中で最高峰の大会に位置付けられており、長野県代表選手の天皇盃受賞は大会史上初の快挙であり、長野県の祈願を達成出来たことは大変嬉しく思っています。本大会は修練を積んだ五十歳代前後の選手が活躍する中で、三十



大会での平澤さんの勇姿

二歳での優勝は歴代二番目の若さであり、これもまた快挙でした。今年で全日本選手権への出場は四回目でしたが、過去の三回は予選（採点制）で矢を全ての中させても点数が伸びず決勝戦（的中制）へは進めませんでした。今年も残すところわずかになりました。時の流れの速さに、ただただ驚くばかりです。普段忙しさに追われていたと、過去を振り返り、その教訓を現在や未来に活かしていくことを怠ってしまいがちです。その結果、いたずらにその場を切り抜けることのみ終始してしまっています。このような繰り返しが終わってしまつたら残念です。やはり、人生にメリハリをつけ、その時々での出来事をしつ

二歳での優勝は歴代二番目の若さであり、これもまた快挙でした。今年で全日本選手権への出場は四回目でしたが、過去の三回は予選（採点制）で矢を全ての中させても点数が伸びず決勝戦（的中制）へは進めませんでした。今年も残すところわずかになりました。時の流れの速さに、ただただ驚くばかりです。普段忙しさに追われていたと、過去を振り返り、その教訓を現在や未来に活かしていくことを怠ってしまいがちです。その結果、いたずらにその場を切り抜けることのみ終始してしまっています。このような繰り返しが終わってしまつたら残念です。やはり、人生にメリハリをつけ、その時々での出来事をしつ

「村の五大ニュース」に投票を

未来を展望する時宜に

この偉業を成し遂げることが出来ました。本当に感謝しております。更に、合宿や試合等で会社休む際は、勤務先の日本電産㈱の同僚に仕事のフォローして頂くなど、会社の多大なる理解にも感謝しております。また、豊丘村体協弓道部には、国体や全日本選手権で活躍する人も多数所属しており、下伊那地域では屈指の道場です。この弓道部で互いに切磋琢磨する雰囲気と、気軽に使用できる村営弓道場の恵まれた環境で日ごろ練習できることも勝利に繋がったと考えております。今後は、天皇盃受賞者として恥じない所作を心掛け、更なる目標に挑戦し続けたいと思っております。

今年も残すところわずかになりました。時の流れの速さに、ただただ驚くばかりです。普段忙しさに追われていたと、過去を振り返り、その教訓を現在や未来に活かしていくことを怠ってしまいがちです。その結果、いたずらにその場を切り抜けることのみ終始してしまっています。このような繰り返しが終わってしまつたら残念です。やはり、人生にメリハリをつけ、その時々での出来事をしつ

豊丘の自然

～シリーズ～

No.134

フユノハナワラビ
(ハナワラビ科)



今年もあとわずか。皆様にとって、今年はどうな年だったでしょうか。私にとつての今年も「発見」の二文字。モリアオガエルが井上君によつて発見され、これで、飯田・下伊那のすべての市町村での生息が確認できた。アオサナエの三方所での発見も大きかった。さて、今年最後の主

今年もあとわずか。皆様にとって、今年はどうな年だったでしょうか。私にとつての今年も「発見」の二文字。モリアオガエルが井上君によつて発見され、これで、飯田・下伊那のすべての市町村での生息が確認できた。アオサナエの三方所での発見も大きかった。さて、今年最後の主

役は、フユノハナワラビ。まさに、名前の通り。地上部は夏は枯れ、冬に新葉を出し、胞子葉が花のように見える。おもしろいことに、ナツノハナワラビも存在する。これ又、名前の通りで、葉は冬に枯れ、初夏に胞子葉を出す。しかも、分布域は重なっている。なぜ、ここまで、二種は自己主張をしあうのだろうか。進化の謎。(山田 拓)

今年も残すところわずかになりました。時の流れの速さに、ただただ驚くばかりです。普段忙しさに追われていたと、過去を振り返り、その教訓を現在や未来に活かしていくことを怠ってしまいがちです。その結果、いたずらにその場を切り抜けることのみ終始してしまっています。このような繰り返しが終わってしまつたら残念です。やはり、人生にメリハリをつけ、その時々での出来事をしつ

俳句 短歌

晋山式秋燦燦と稚児の列
唐突に山色崩す秋時雨
子等と訪ふ寺も社も落葉霏霏
後ろ髪引かれる如く秋が去る
懐かしき声の便りや冬日和
山脈の色変りつつ秋深む
呼ばぬ猫何時の間に来た落葉掃く
山峡の空へ彩なす谷紅葉
焼きおやき半分こして暮れ早し
銀杏の実直売所より買ひ求む
病む母をみまもる不動冬に入る
病む母の手は言葉なり初時雨
初冬の天竜川子らは急ぎ足
晩年を意識しはじむ草紅葉
水中にちからをこめて芦枯れり

公民館短歌会

芋ほりし白菜干して花はへやいつでも霜ふるあした
柿干しの長屋壊され若きらの住処となりぬ
我と他人仲良くくらすおおもとは違いがあるを認めるにあり
わが村にリニアは通るこの地下をあと十余年われ如何にいる
見つからぬ六人残し春までは御岳に眠らせ捜索閉じる



11月1日から
11月30日まで
(届出分)
出生
子氏名 届出人 自治会
下岡 真緒 史治 八王子
婚姻
上地 洋彰 北村
後藤 由佳 飯田市
有賀 克伸 飯島町
松下 沙織 柿外土
宮下 晋一 飯田市
原 美和子 林原
死亡者 年齢 届出人 自治会
宮下 政子 55 武文 寺島一
宮下 正 92 地蔵道
松岡 寿子 96 武人 北垣外
栗澤 佳年 93 照子 小園
尾花 政司 85 麗原 市ノ沢
大原 澄仁 54 杏亭 林里二
壬生 正二 65 裕之 壬生浜南

柳 (豊丘川柳クラブ豊柳会)

▼課題 「命」 福沢勝美 選
延命はしたくないがと医者通い 市沢 照子
命令に従い動く子の仕種 宇井惠美子
拉致の子へ命を賭ける老夫婦 西元 峯子
軸吟：命一下雨の空へ行つたきり

▼課題 「舞」 互 選
見せられぬテンヤンヤの舞台裏 林 桃子
舞い落ちる火花にみこし村祭り 宮島 昭三
黒ずんでいく政治家の舞台裏 原 美風
選挙戦軍師頼寄す舞台裏 桃沢 健介
▼自由吟 桃沢健介 選
赤サンゴ無法漁師を踊らせる 久保ひろし
あの家もむき手無いか余り柿 福沢 勝美
解散は政治家どもの論理だけ 吉川 燎
軸吟：反基地へ沖縄人の熱い意志

市田柿皮剥きつるす最盛期猫の手も借りた忙しき続く
喉の奥に秋刀魚の小骨がつきささり悪戦苦闘の夕食となり
きおいこむ神輿とあわせ打ち上ぐる火花あでやか夜空を占むる
今日も又友の言葉に励まされ吾にかえつて深呼吸する
畷に落ち必死に出口をさがす熊腹の空けるを眼が訴える

紅梅
織田大原
河原 梨花

中山 寿子
磯部セツ子
田中 静
竹村 茜
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
和地 睦夫
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
林 惠美子
北原 昭子

大原眞由美
筒井 恵子
松下 泰見
松尾ヒサコ
富永 博道

大倉 知江
原 誠
毛涯百合子
北澤 秀子
壬生 千春
天高し脚痛く身にも旅ごころ姉と憩える「二人静」に
日暮れまで畑に鍬持つ老い妻の手には薄つすら泥のつきいる
乗る人も降りる客なき秘境駅五分停車に紅葉愛するも
福澤 亀人